

『農業大学校の現況調査から見た、青年農業者育成の将来に向けての一考察』

三重県中央農業改良普及センター（全国青年農業者育成研究会 会長） 奥山 幸伸  
 新潟県農林水産部経営普及課（全国青年農業者育成研究会 幹事） 藤巻 伸一

1 はじめに

現在は、少子化の流れを受け、一般の大学や短大等において学生募集がうまくいかなくなっている状況にある。各道府県に設置されている農業大学校でも同様に、学生が集まりにくくなってきている。また、農業大学校の学生は、これまで主に農家子弟で占められていたのが、非農家出身の学生が増加するなど、学生の多様化が進んできている。このような情勢の中、近年の動きとして、多くの農業大学校で、専修学校化や専修学校化までしなくともカリキュラムの見直し等が取り組まれている。

そこで、農業大学校の現状を調査し、今後の農業大学校の在り方の方向性を示す一助になればとの思いから、本調査研究に取り組んだ。

2 調査方法

今回の農業大学校に対する調査項目は、以下のとおりである。

学生の確保状況、卒業生の進路状況、専修学校化の状況、専修学校化のメリット・デメリット、学校の特徴や特色、就農希望もしくは就農予定者向けの研修の受講者の状況、就農希望もしくは就農予定者向けの研修の特徴や特色、農業大学校が魅力的になるために必要なことから（調査用紙は、報告の最後尾に添付）

調査は、各道府県の農業大学校に調査用紙を配布し、協力を依頼したところ、36校から回答をいただいた。

3 調査結果および考察

(1) 農大の入学者の状況

主に高校生を対象に学生募集している2カ年の養成課程について、36校全体の過去3カ年における募集定員に占める入学者の充足率は、平均75.1%であった。（表1）

表1 募集定員に占める入学者の充足状況別学校数

募集定員に占める入学者数の割合	学校数
90%以上	8校
90%～80%以上	6校
80%～70%以上	8校
70%～60%以上	7校
60%未満	7校

(2) 卒業生の進路状況

回答のあった36校の最近3カ年の卒業後の進路を見ると、就農した学生（自営就農+法人等への就職就農）は、36%を占めており、農業関連の会社等への就職を含めると、67%になっている。

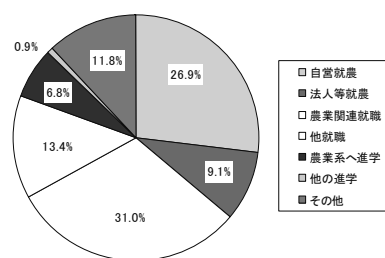


図1 卒業生の進路状況

表2 卒業後の就農率別学校数

卒業後の就農率	学校数
50%以上	4校
50%未満～40%以上	6校
40%未満～30%以上	14校
30%未満～20%以上	10校
20%未満	2校

就農率は全体的に低いですが、卒業直後の進路状況であり、一旦他産業に従事したり、進学したりした後に農業に就くケースもあると考えられる。また、その中には、卒業後に農家研修しているケースも含まれている。

(3) 専修学校化の状況について

回答のあった36校のうち、16校が既に専修学校化されており、4校が20年度に予定している。

また、3校で専修学校化しないことになったとの回答があった。

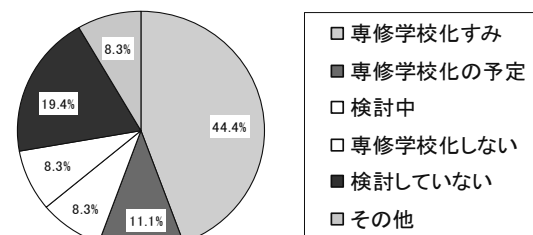


図2 専修学校化の状況

専修学校化もしくは専修学校化が予定されている学校と「専修学校化しなかった」や「検討していない」、「その他」と回答した学校を比較

したところ、入学者の充足状況は前者の方が高かったのに対し、卒業後の就農率は低くなることわかった。

表3 専修学校化している（予定を含む）学校と専修学校化していない（検討中は除く）学校の入学者の充足状況の比較

	学校数	定員に占める入学者の割合	割合別の学校数				
			90%以上	90%未満 80%以上	80%未満 70%以上	70%未満 60%以上	60%未満
専修学校化している学校 専修学校化を予定している学校	20	76.3%	5	4	3	5	3
専修学校化しないことに決定した学校 専修学校化の検討をしていない学校 その他	13	70.5%	2	1	4	2	4

表4 専修学校化している（予定を含む）学校と専修学校化していない（検討中は除く）学校の就農状況の比較

	学校数	卒業後の就農率	割合別の学校数				
			50%以上	50%未満 40%以上	40%未満 30%以上	30%未満 20%以上	20%未満
専修学校化している学校 専修学校化を予定している学校	20	33.8%	2	2	8	6	2
専修学校化しないことに決定した学校 専修学校化の検討をしていない学校 その他	13	38.6%	2	3	4	4	0

専修学校化されている学校からの専修学校化によるメリット・デメリットについては、おおむね次のようなものであった。

専修学校化したことによるメリットは、多くの学校で生かされており、特に4年制大学への編入は、取り組みの早かった学校では、5名という実績をあげていた。一方で、懸念される材料としては、4年制大学への編入を希望する学生の増加が農大の趣旨に合わなくなることがあげられる。このあたりは、各学校でしっかりと考えておく必要があるように思われた。

農業大学校を受験する学生や高等学校に対しては、専修学校化が良いアピール材料となっていると感じている学校は多いようである。

また、意見の中には、「農業自営者養成目的であり、専修学校化の必要を認めない」、「農業大学校の本旨は担い手養成であるため、専修化ではなく新規農業経営者養成の観点より検討した。」という学校があることも付け加えておきたい。

他の学校のやり方をまねるのではなく、独自の考えをしっかりと持って運営されている農業大学校があることも改めて感じさせられた。

表5 専修学校化のメリットとデメリット

メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4年制大学への編入が可能である。</li> <li>②卒業生に専門士の称号が付与される。</li> <li>③日本学生支援機構の奨学金制度を利用できる。</li> <li>④無料職業紹介所の開設。</li> <li>⑤農業後継者に多様な選択肢を提供できる。</li> <li>⑥学生募集に役立つ。</li> <li>⑦農大のイメージが高まった。</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各種法律にもとづく事務手続きの増加。</li> <li>②編入目的で入校する学生が増加する可能性がある。</li> <li>③研究課程の進学に影響する。</li> <li>④卒業後の就農率が若干後退する。</li> </ul>

#### (4) 学校の特徴や特色と入学者の充足状況または就農状況について

学校の特徴・特色で、非常に充実もしくはかなり充実という回答が多かった項目は、「教育内容(講義)」(45.5%)、「教育内容(実習)」(57.6%)、「農家留学の内容」(50.0%)、「各種免許等の資格取得」(57.6%)、「農業高校との連携」(48.5%)という5つであった。やはり、農業大学校の実習を中心としたカリキュラムが特徴・特色になっているように思われる。

次に、非常に充実という回答に絞ってみると、「教育施設の充実」(18.2%)、「農業実習施設の充実」(15.2%)、「農家留学の内容」(15.6%)の3つであった。この中で、農業実習施設の充実については、今後改善と回答した学校も多くあった。(21.2%)

農業実習施設の充実以外に、今後改善という項目が多かったものは、「食堂やテニスコートなど福利厚生施設の充実」(22.6%)、「非農家のための就農場所の確保」(26.7%)であった。

次に、問4の項目ごとの回答について、非常に充実という回答を4点、かなり充実を3点、普通を2点、今後改善を1点とした。この点数をもとに、各種データとの相関があるかを分析した。

問4の回答結果の点数と募集定員に占める入学者の充足率や卒業後の就農率との間で相関があるか調べたところ、どちらも問4の項目との間には、はっきりとした相関を認めることはできなかった。

そこで、専修学校化もしくは専修学校化が予定されている学校と、「専修学校化しなかった」や「検討していない」、「その他」と回答した学校に分けて、回答に違いがあるか分析した。

#### 事例紹介①

##### 【就職先の斡旋・非農家のための就農場所の確保事例】

近年、農業法人の設立が増加していることから、農業法人からの求人情報が増加傾向にある。

さらに、学生の子農家出身割合が増加しており、農業法人を就職(就業)先に考える学生が増えている。以上のことから、学生を対象に、県内の農業法人を招いた「就農相談フェア」を学校で開催し、法人での就業内容や求人情報を学生自ら聴取するなど、法人との良好な関係を築いている。

この取り組みから、近年は農業法人に就職する学生が増加しており、地域農業の担い手不足の解消にも寄与している。

#### ア 学校の特徴・特色と入学者の充足状況

専修学校化した(以下予定含む)グループでは「教育施設の充実」、「食堂やテニスコートなど福利厚生施設の充実」、「海外研修」3つの項目の合計点数と入学者充足率との間で相関があるとまでは言えないが、この3つの項目について、充実しているという回答が多い学校ほど、募集定員に占める入学者の充足率が高くなるという傾向にある。(図3)

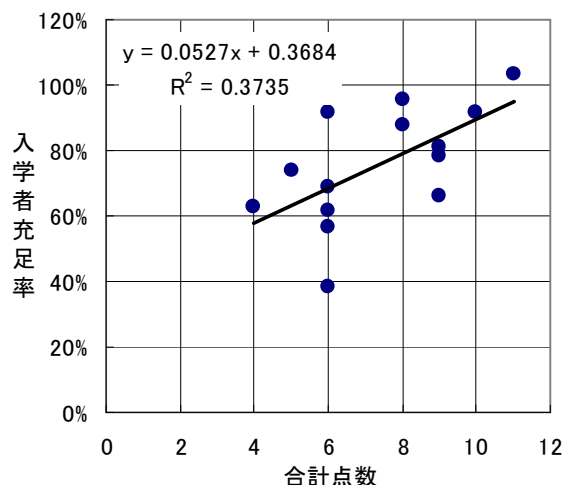


図3 専修学校化している学校の回答と入学者充足率との関係

一方、専修学校化していない(以下検討中を除く)グループでは、「教育内容(講義)」「進学対策」「関係機関との協力体制」の3項目の合計点数と入学者充足率との間で相関があるとまでは言えないが、この3つの項目が充実しているという回答が多い学校ほど、募集定員に占める入学者の充足率が高くなるという傾向にある。(図4)

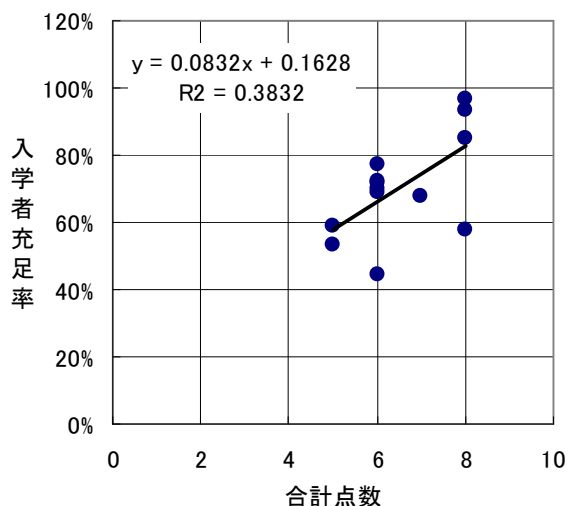


図4 専修学校化していない学校の回答と入学者充足率との関係

## イ 学校の特徴・特色と就農率

専修学校化したグループでは、入学者充足率の場合と同じく「教育施設の充実」、「食堂やテニスコートなど福利厚生施設の充実」、「海外研修」の3つの項目の合計点数と就農率との間において、相関があった。つまり、この3つの項目について、充実しているという回答が多い学校ほど、就農率が高くなるという関係が認められた。(図5)

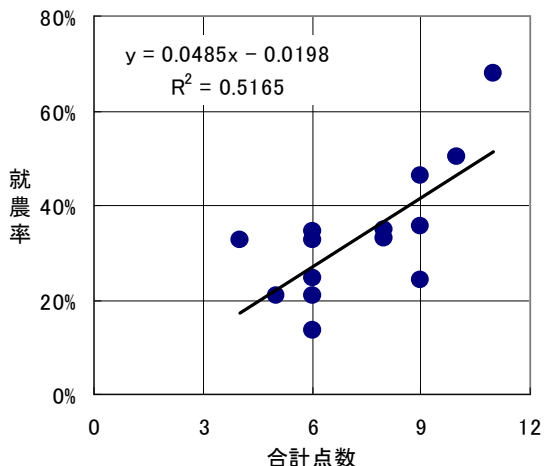


図5 専修学校化している学校の回答と就農率との関係

一方、専修学校化していないグループでは、「教育内容(講義)」「教育内容(実習)」「農家留学の内容」「各種免許等の取得」「就農希望者への研修」「関係機関との協力体制」の6つの項目の合計点数と就農率との間に相関があった。つまり、上記の6つの項目について、充実しているという回答が多い学校ほど、就農率が高くなるという関係が認められた。(図6)

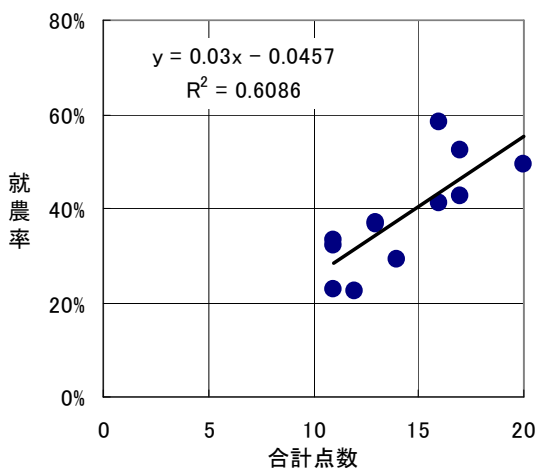


図6 専修学校化していない学校の回答と就農率との関係

・専修学校化しているかどうかで、入学者充足率や就農率に寄与する項目が異なることがわかった。特に専修学校化していない学校では、教育内容や関係機関との協力体制といった項目が入学者充足率と就農率どちらにもプラスに働くという結果となった。

## (5) 就農希望者、就農予定者向け研修の状況について

多くの学校で、就農希望者や予定者向けの研修が企画され実施されている。近年、団塊の世代向けの研修メニューが増えている様子が伺える。しかし、研修後の動向については、把握していない学校が多く見受けられた。一方、研修後に確実に就農している学校もあった。

問7で、各学校が、研修について、非常に充実もしくはかなり充実と答えた項目は、「教育内容(講義)」(43.8%)、「教育内容(実習)」(56.3%)、「研修の開催日時等の設定」(46.9%)であった。

次に、非常に充実という回答に絞ってみると、「教育施設の充実」(9.4%)という回答が多かった。(非常に充実という回答は、全体の中で4.0%と少なかった。)

また、今後改善が必要な項目は、「農家留学の内容」(40.0%)、「農業法人等への就職の斡旋など」(46.2%)であった。「非農家のための就農支援」については、今後改善との答えが29.6%あったが、一方で、農業大学校ではなく別機関が行うべきとはっきりと機能を分けて考えている学校もあった。

### 事例紹介②

#### 【教育内容(実習)と農業実習施設が充実している研修の事例】

研修の目的は、即就農に役立つ実践的な技術の習得としているので、実習中心の研修体系としている。研修生の希望に応じた実習品目を決めて研修に入るようになっている。また、就農後にすぐ役立つように、トラクター、管理機、動力噴霧機などの機械作業の修得と、播種から収穫までの一連の作業・技術が習得できる研修体系をとっている。

そのため、研修生用の各種機械、冷蔵庫、育苗ハウス1棟、パイプハウス5棟、露地ほ場などを設置し、専任職員を中心に指導を行っている。研修を修了した研修生の就農率は80%と高く、実践的な研修となっている。

平成20年度からは、基礎的知識と実践技術を効率よく習得するために、実習中心の内容から実習と講義のバランスを適正に配分した新しい研修体系に移行することになった。

各学校の事例を見ていると、実習による実践的な技術研修を中心に、研修効果を出していることと、就農希望者がサラリーマン等の場合、現在の職をつづけながら農業技術等が学べるよう、座学を夜間に、実習は休日に行っているなど、工夫が見られる。

そういった取り組みが、少しでも多くの就農者確保につながっていくと考えられる。また、Iターン等の就農に向けては、青年農業者等育成センター等との連携が非常に重要となっている。

### (6) 魅力的になるために必要なことがらと入学者の充足状況または就農状況について

重要度が非常に高いという回答が多かった項目は、「農業実習施設の充実」(44.4%)、「教育内容(講義)」(54.3%)、「教育内容(実習)」(61.1%)、「各種免許等の資格取得」(44.4%)「就農希望者への研修」(45.7%)であった。やはり、農業大学校の実習を中心としたカリキュラムということから、教育内容や実習施設について、多くの学校が重要と考えている。

問8の項目ごとの回答について、非常に高いという回答を5点、やや高い4点、普通3点、やや低い2点、低い1点とした。この点数をもとに、各種データとの相関について分析した。

問8の回答結果の点数と募集定員に占める入学者の充足率や卒業後の就農率とで相関があるか調べてみたところ、どちらとも問8の項目の間には、はっきりとした相関を認めることはできなかった。

そこで、問4の時と同様に専修学校化もしくは専修学校化が予定されている学校と、「専修学校化しなかった」や「検討していない」、「その他」と回答した学校に分けて、回答に違いがあるか分析した。

#### ア 魅力ある学校に必要なことと入学者の充足状況

専修学校化したグループでは、「海外研修」「専修学校化による4年制大学への編入」の2つの項目の合計点数と入学者充足率について相関があるとまでは言えないが、この2つの項目について、重要度が高いと考えている学校ほど、募集定員に占める入学者の充足率が高くなるという傾向にある。(図7)

一方、専修学校化していないグループでは、「海外研修」「専修学校化による4年制大学への編入」に加え、「後継者、新規就農者への研修」の3つの項目の合計点数と入学者充足率との間に相関があった。つまり、「海外研修」「専修学校化による4年制大学への編入」「後継者、新規就農者への研修」の3つの項目について、重要度が高いと考えている学校ほど、募集定員に占める入学者の充足率が高くなるという関係が認められた。(図8)

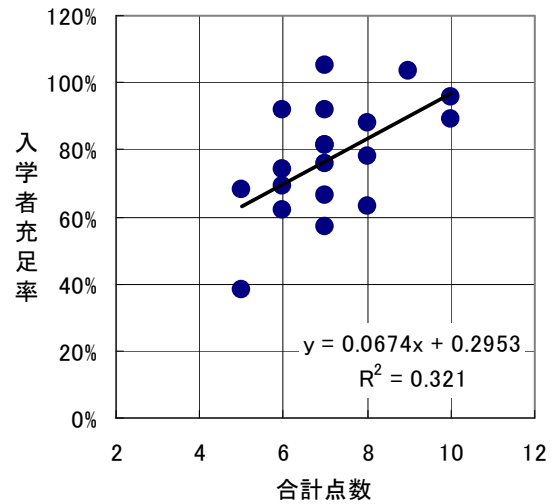


図7 専修学校化している学校の回答と入学者充足率との関係

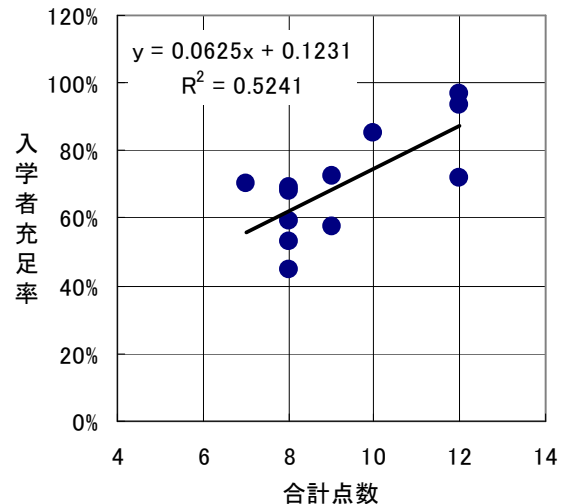


図8 専修学校化していない学校の回答と入学者充足率との関係

#### イ 魅力ある学校に必要なことと就農率

専修学校化したグループでは、「食堂やテニスコートなど福利厚生施設の充実」、「海外研修」、「専修学校化による4年制大学への編入」の3



つの項目の合計点数と就農率との間に相関があるとまでは言えないが、この3つの項目について、重要度が高いと考えている学校ほど、卒業後の就農率が高くなるという傾向にある。(図9)

一方、専修学校化していないグループでは、「各種免許等の資格取得」と「海外研修」の2つの項目の合計点数と就農率の間で相関があることがわかりました。つまり、各種免許等の資格取得と海外研修の2つの項目について、重要度が高いと考えている学校ほど、卒業生の就農率が高くなるという相関が認められた。(図10)

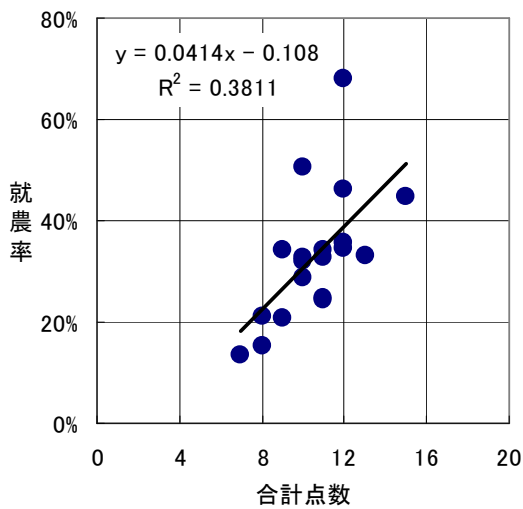


図9 専修学校化している学校の回答と就農率との関係

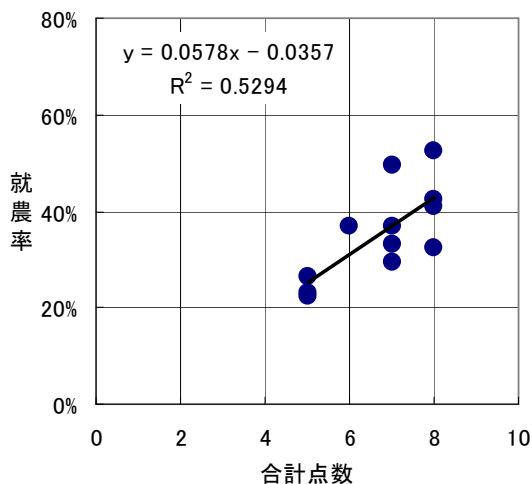


図10 専修学校化していない学校の回答と就農率との関係

・専修学校化による考え方の違いは、この結果からははっきりとしなかった。ただし、入学者充

足率が高い学校で共通項として、「海外研修」と「専修学校化による4年制大学への編入」を重要と考えている。一方、就農率が高い学校では、「海外研修」を重要と考えていることがわかった。

#### 4 まとめ

今回、各道府県に設置されている農業大学校について、調査研究をさせていただく機会を得た。農業大学校の大きな目標として、自営農業者の育成を掲げている。しかし、最近では個々の農業経営が大きくなり、農業経営が会社化されてきている。したがって、自営農業者にこだわらず、農業法人へ就職して活躍できる人材を育成することも、大きな課題になっていると思う。

もちろん、自営農業者を育成することが根本にあることを忘れてはいけない。これからの農業者は、早くから経営者能力を身につけることが必要である。農業大学校のカリキュラムに経営者の早期養成講座を取り入れていくことも重要である。

現在、少子化が進む中で、各農業大学校とも入学定員の確保には苦勞されている状況が明らかになった。今回の調査結果から、学生を確保していくには、施設の充実、海外研修、教育内容、進学対策、関係機関との協力体制、専修学校化による4年制大学への編入といったことが、重要な要素となっていることがわかった。上記の部分、充実させ、高校や学生にどうPRしていくかが必要である。

また、卒業後の就農率を高めていくには、施設等の充実、海外研修、各種免許等の資格取得、教育内容、農業実習の内容、関係機関との協力体制といったことが、重要な要素となっていることがわかった。上記の部分については、内容をさらに充実させていくことが重要である。

少子高齢化という社会情勢から、必然的に数多くの産業で優秀な人材の獲得競争が始まっている。どうしたら農業大学校に優秀な学生を集められるか、答えは難しいと思う。しかし、今回の調査から、学生が集まる学校には、何かしら他にはない魅力があるように感じる。自分の学校には、他にはないこんな良いところがあるという独自性をいかに出せるかが必要だと思う。

さらに、考えておいてほしいことは、卒業後に学生が夢を持ち、夢の実現に向け努力していけるか、ということだ。農業をやりたいと思う学生が、卒業後に農業経営ができる環境が必要である。学生は農家出身者ばかりではない。非農家でも農業大学校に進学し、農業経営者としての能力のある人は多くいる。そのようなせっかく芽生えてきた

小さい芽を、青年農業者等育成センターや農業改良普及センター、市町村、J A、農業者など関係機関が協力して就農できる環境を整備し、育成していくことも必要だと思う。

自営で力を発揮できる学生もいれば、法人等の雇用の中で力を発揮できる学生もいる。したがって、自営就農と就職就農という出口を整備して、学生が目標を持って卒業できるようにしていくことも重要である。

今回の調査では、図らずも専修学校化という視点での分析が中心となった。専修学校化を転機に、高校の先生へのPRがしやすくなったという話もあった。なんでも専修学校化ありきではなく、自分の学校の独自性をどう磨くかを考えた中での、選択肢の一つが専修学校化だと思う。

学校の成り立ちや地域性は、それぞれ違っている。だから、他のうまくいっている学校をまねしてもうまくいくとは限らない。やり方はいろいろあるので、農業大学校の職員が知恵を出し合って、やれるところから取り組んでいくしかないと思う。農業の担い手を育成するという基本の考えを忘れずに、そのためにどこが問題か、どこを変えなければならないか、常に考えることが求められていると思う。

## 5 最後に

今回このような分析となってしまいましたが、違った角度からの分析も可能だと思う。この調査研究でいたらなかった点については、お詫びをしたい。

また、この調査研究に対して、ご協力いただいた各道府県の農業大学校の職員の皆様には、それぞれの農業大学校の日ごろの取り組みに、頭の下がる思いです。この場を借りて深く感謝申し上げます。

調査用紙

学校名

記入者 職名 氏名

問1 最近の学生確保の状況をお尋ねします。

※養成課程や研究課程などのコース別に人数を記入してください。

	課程、コース名等	平成17年度	平成18年度	平成19年度
募集定員				
入学者数				

問2 最近の農大卒業生の進路についてお尋ねします。

※養成課程や研究課程などのコース別に人数を記入してください。

	課程、コース名等	平成16年度	平成17年度	平成18年度
卒業生数 ※以下進路先別に人数を記入				
自営就農				
法人等への就農 (雇用就農)				
農業関連会社等への就職 (JA、農業資材会社など・・・)				
上記外の会社等への就職				
農業系大学等への進学				
上記外の大学等への進学				
その他				



問3 専修学校化の状況についてお聞きします。あてはまるものに○をつけてください。

1. すでに専修学校化している。
2. 次年度以降に専修学校化( 年度予定)
3. 専修学校化の検討段階
4. 検討したが、専修学校化しないことに決定。  
→専修学校化しなかった理由をお聞かせください。

5. 専修学校化の検討はしていない。

6. その他(具体的に \_\_\_\_\_ )

1に○をつけた学校の方にお聞きします。

専修学校化のメリット、デメリットについて教えてください。

・メリット


・デメリット


問4 あなたの学校の特徴や特色等についてお聞きします。以下の項目すべてにお答えください。

項目	記入欄(あてはまるものに○をつけてください。)
教育施設の充実	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
農業実習施設の充実	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
学生寮等の充実	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
食堂やテニスコートなど福利厚生施設の充実	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
教育内容(講義)	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
教育内容(実習)	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
農家留学の内容	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
各種免許等の資格取得	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
海外研修	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
農場生産物の販売等の実習	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
パソコン・インターネットなどIT関連の研修・実習	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
就農希望者への研修	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
後継者、新規就農者への研修	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
一般の方への農業理解のための活動	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
進学対策	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
就職先の斡旋	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
非農家のための就農場所の確保	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
農業高校との連携	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
関係機関との協力体制	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善



就農希望者、就農予定者向けに研修を行っている場合、次の問5～8の質問にお答えください。  
 (研修を行っていない場合は、問8の質問にお答えください。)

問5 就農希望もしくは予定者向け研修の受講者数について(人数で記入してください。)

研修コース名など	受講者の主な年代	平成17年度	平成18年度	平成19年度

※受講者の主な年代には、30代中心、20代と30代 というように記入してください。

問6 研修受講者が、研修後に就農された方について(人数で記入してください。)

研修コース名など	受講者の主な年代	平成16年度	平成17年度	平成18年度

※受講者の主な年代には、30代中心、20代と30代 というように記入してください。

問7 就農希望者、就農予定者向けの研修についてお聞きします。以下の項目すべてにお答えください。

項目	記入欄(あてはまるものに○をつけてください。)
教育内容(講義)	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
教育内容(実習)	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
教育施設の充実	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
農業実習施設の充実	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
研修の開催日時等の設定	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
農家留学の内容	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
各種免許等の資格取得	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
非農家のための就農支援(農地、住居など)	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
農業法人等への就職の斡旋など	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善
関係機関との協力体制	1. 非常に充実 2. かなり充実 3. 普通 4. 今後改善

上記以外の研修上の特色(具体的に記入してください↓)



問8 農業大学校が魅力的になるために必要なことがらは何だと思いますか？  
各項目ごとに、重要度を5段階でそれぞれ評価してください。

項目	評価欄(あてはまるものに○をつけてください。)
教育施設の充実	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
農業実習施設の充実	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
学生寮等の充実	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
食堂やテニスコートなど福利厚生施設の充実	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
教育内容(講義)の充実	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
教育内容(実習)の充実	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
農家留学の内容充実	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
各種免許等の資格取得	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
海外研修	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
農場生産物の販売等の実習	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
パソコン・インターネットなどIT関連の研修・実習	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
専修学校化による短大卒資格	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
専修学校化による4年生大学への編入	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
就農希望者、就農予定者への研修の充実	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
後継者、新規就農者への研修	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
一般の方への農業理解のための研修の充実	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
進学対策の充実	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
就職先の斡旋	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
非農家のための就農場所の確保	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
農業高校との連携	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い
関係機関との協力体制	1:非常に高い 2:やや高い 3:普通 4:やや低い 5:低い

上記以外に重要と思われること(具体的に記入してください↓)
.....
.....
.....
.....

お願い事項

・大学校の内容等や研修内容等のわかる資料等がありましたら、1部同封していただけるとありがたいです。(例 学校要覧、学生募集要領、農大のパンフ、研修の案内など)

ご協力ありがとうございました。